

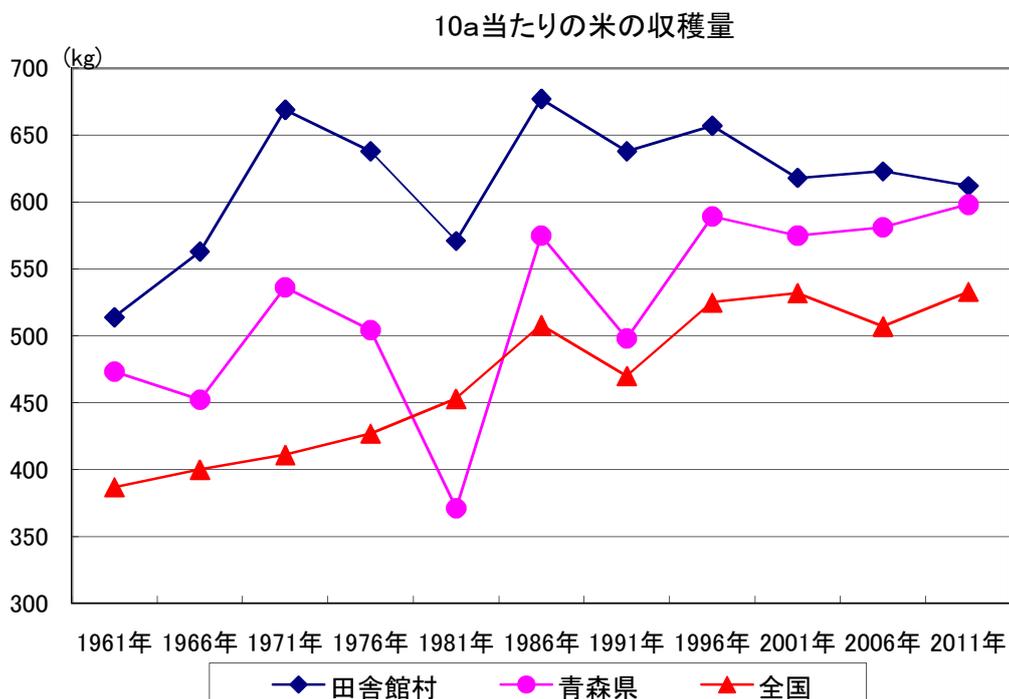
## 「田んぼアート」の田舎館村

～稲作体験ツアーで集客～

日本不動産研究所 青森支所  
高田 千里

青森県南津軽郡田舎館村（いなかだてむら）は、青森県の穀倉地帯である津軽平野の南部、弘前市と黒石市の間に位置し、人口 8,356 人、世帯数 2,568 世帯（住民基本台帳、平成 24（'12）年 2 月末現在）である。八甲田連峰や白神山地といった山のイメージが強い青森県であるが、隣接する藤崎町・板柳町とともに林野のない平坦地の村である。村の中央を浅瀬石川が、弘前市との境を平川が流れ、肥沃な土壌を有しており、総面積 22.31 km<sup>2</sup>のうち宅地はわずかに 11.4%で、田が約 52.5%、畑が約 12.7%とほとんどが農地である。

下記のグラフは 10a 当たりの米の収穫量を昭和 36（'61）年から 5 年ごとに青森県及び全国と比較したものである。田舎館村の収穫量は、平成 15（'03）年を除いては青森県及び全国を上回っており、11 回も収穫量日本一になっている。最も収穫量が多かった年は昭和 54（'79）年で、田舎館村 712kg、青森県 597kg、全国が 482kg であった。昭和 56（'81）年に発見された弥生時代中期の水田跡である垂柳（たれやなぎ）遺跡からは家族総出の農作業の足跡や炭化米も出土していることからわかるとおり昔から村を挙げての稲作への努力や風土がもたらした結果が収穫量日本一の礎となっているといえるだろう。なお、田舎館村埋蔵文化財センター内では約 2000 年前の地面上を歩くことができる。



田舎館村役場「田舎館村水稲年別反収」、  
農林水産省東北農政局青森地域センター「農林水産統計あおもり」、  
農林省「作物統計」を基に作成

村の主要作物である「米」にこだわって村おこしをと始めたのが「田んぼアート」である。今でこそ全国各地でみられるが、平成5(’93)年から始まった田んぼアート発祥の地である。平成16(’04)年からは遠近法で描かれ、使用する稲の種類も増えたことにより、稲でありながら緑系だけではないカラフルな巨大アートに仕上がっている。

平成22(’10)年は約14万人が訪れ、最近では海外にも紹介されている。細かいデザインのため当然ながら田植え・稲刈りは手作業で、体験ツアーで誰でも参加することができ、第15回ふるさとイベント大賞(田んぼアート【稲作体験ツアー】)を受賞している。



「平成23(’11)年度の田んぼアート作品『竹取物語』 田舎館村役場産業課 提供

15,000 m<sup>2</sup>のキャンバスに描かれた田んぼアートは、お城をイメージした役場庁舎の天守閣（展望台）から最も美しく観賞できるよう遠近法を用いてえがかれている。見頃は7月中旬から8月中旬で、天守閣からは田舎館村全域はもちろんのこと360度のパノラマが楽しめ、村のすべてを見守っているかのようなようである。



「お城をイメージした田舎館村役場」

「田んぼアート」の東方、国道 102 号黒石バイパス沿いにある「弥生の里（産直センター、レストラン、大型遊具等が整備された公園・広場）」では二代目の田んぼアートが予定されている。また展望台の増設なども計画されており、弥生時代から続く米・稲作を活用した村おこしは今も歩みを進めている。